

生成してゆく仲通りともしあがるばとひたるば その『つらなり』がまちを元気にしてゆく

駅前とその周辺の今

駅の南口におり立つ。車のロータリーとバス乗り場がひろがる。そして、その周りに立ちはだかる壁。大型商業ビル群。その一つ「富山ステーションフロントCIC」。その奥には、公園や、庁舎群 等が控えている。このビルに用のない人たちは、両脇の道路に分かれて向かうことになる。歩道幅はあるが、広い車道と、そこを歩きかう車に分断された道路。寡黙なビルの壁。この通りに親しみを感じることができるのだろうか。

県庁前公園、庁舎群それと城址公園の今

車道によって近隣周辺から分断されているように見える公園。県庁前公園と県庁舎本館も車道や駐車場によって分断されており、富山城址公園にあっては、増築された庁舎群とそれに張り付くように設けられた車によって分断されている。それぞれが魅力的要素を持ち合わせた都市施設ではあるが。

城址公園と商店街の今

駅前と同様、車道により分断された通り。シャッターが散見される通りになっている。

裏通りから仲通りへの生成

CICの低層部をもっとオープンにできないだろうか。昔ながらの何々銀座のアーケードアーチとは違った開放性。通勤通学に通抜けられる近道的日常動線。人が流れ出し増えだすと、通りに活気が出てくる。裏通りから仲通りへとリプレイス(入れ替わる)の芽吹き。生成のはじまり。

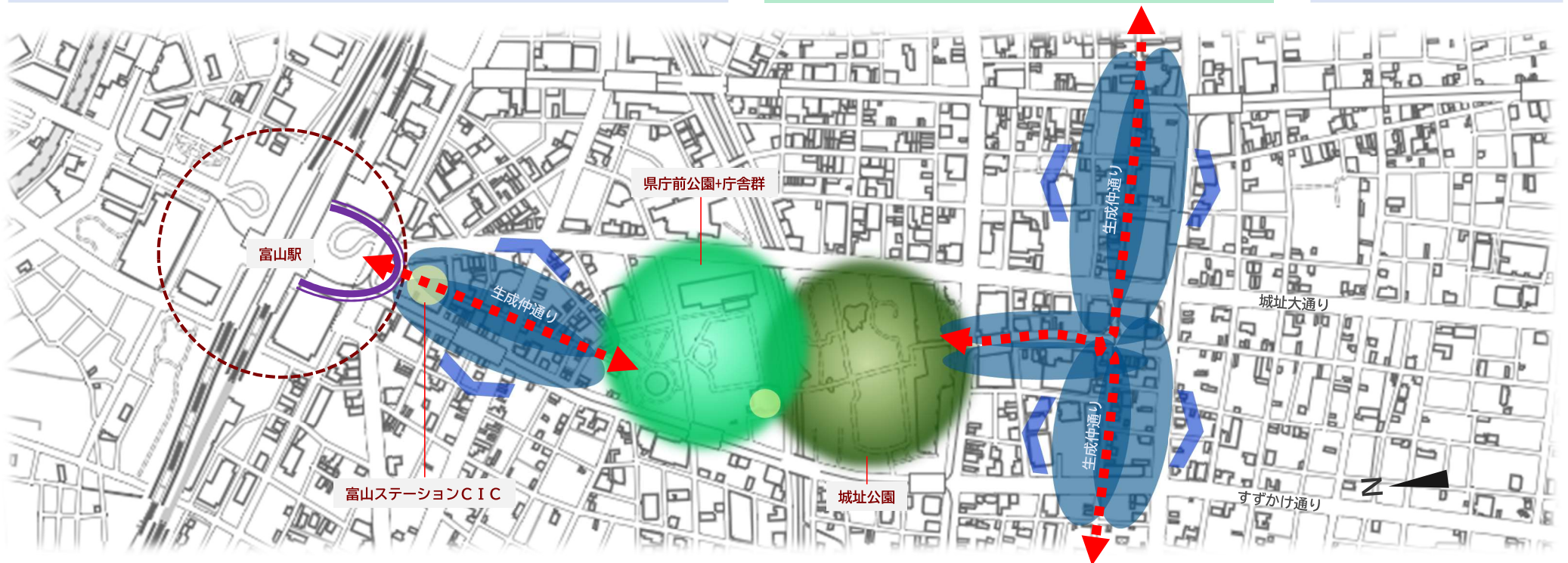
- ・この仲通りは、歩行者優先道路として、生活道路としている人たち以外の車は抑制したい。
- ・この通りに面する建物には、小規模の店舗はもちろん、スタートアップを始めとする小規模企業などもオフィスを構えられるものとした。彼らは、大きなスペースや体裁を必要としない。

対照的性格を持った『ば』の形成

- ・南北につらなる仲通りのかすがいとなり、まちの新たな魅力の源となるべく、行政と民間の連携の中で活用、運営管理していける、対照的なサードプレイスとしていきたい。
- ・現在、静的に自然や歴史にひたる。が主となっている2つの公園だが、城址公園にそれをあずけ、県庁前公園は、庁舎本館前駐車場等含め一体となった『ば』とし、まちをもしあげる動的活用を主とした都市施設としたい。

人の流を誘因

駅の南口から仲通り、対照的性格の2つの『ば』、そこからさらにここをかすがいとしてつらなる中で、人の流れを誘引するきっかけをつかみ、商店街再生の足掛かりを見出していけな



いろいろなやりたいが、あつまって「もりあがるば」

- 盛り上がる。集う。刺激しあう。子供がはしゃぐ。それをみて大人が微笑ましく思う。そんなことが実現できる場として整備できればと考えている。
- ・県庁前公園、県庁舎本館前駐車場及び、二つのエリアの間にある道路、そして、本庁舎の内部リプレースを含む一体的整備、及び、運用により、歴史的建造物を含めた躍動的な文化施設としたい。
- ・本提案は、利便性を優先しすぎるあまり、道路、特に車道、駐車場等によって分断された都市施設の在り方に新たな意識をもって取り組む姿勢を必要とする。又、行政組織に多少踏み込むことも必要になるだろう。
- ・既存の制度等をそのままに、対処療法的に施設等を増殖させる手法では、将来性のある魅力的な方向性は見えてこないような気がする。

■ながめる噴水から感じる噴水へ

これまでみんなに親しまれてきた噴水。
それは、現在の場所や大きさ、噴水口の位置も原則そのまま維持することによって継承したい。

しかし、眺めるだけのものではなく、立ち上がりを取り払い、水にふれ冷たさを感じるなど、親水タイプの噴水としていきたい。

・暑い日は、子供たちの水遊びのぼとして、通りすぎる人々たちには、自然のミストエリアとして。

・イベント時には、この場所がステージとして設えられ、集った人たちの盛り上がりを噴き上げる。

■芝生から芝生の丘へ

・イベントによっては、感じる噴水から、徐々にせりあがる芝生の丘は客席となり、この場の一体感が増幅される。

・丘の下は、イベントの備品、災害時の備品、備蓄品等の倉庫及び、トイレや休憩、案内などの場として活用される。

■車道から高木の連なるレンガのなか路(遊歩道)へ

・立派に育った並木、電気、水道、下水、ガスなどのインフラが地下を走る道路は、水場のあるレンガのなか路にリプレースされる。夏には自然の木陰を提供し、オープンマーケットやお弁当などのケータリングカースペースとしても活用される。

・日時設定により、スケートボードやバーベキューなど、公園では禁止されがちな活動にも活用の中を広げたい。

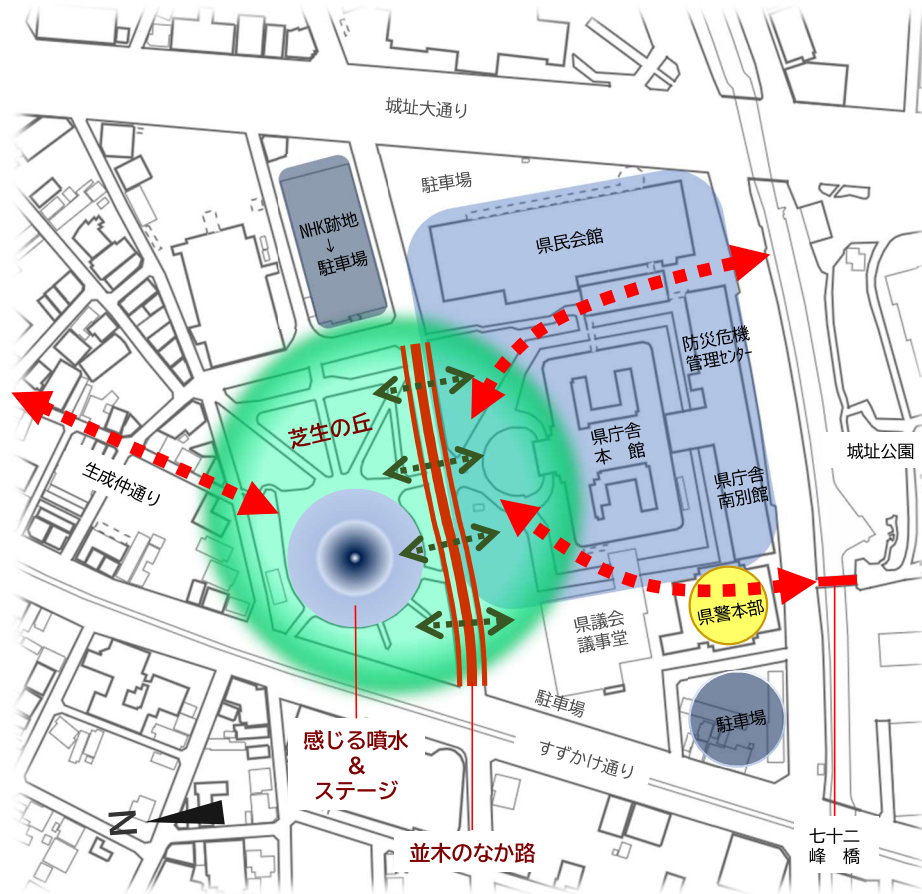
・災害時には、仮設トイレや仮設の炊き出し場さらに、仮設住宅のインフラ設備などにも利用できるようにする。

■駐車場から庁舎本館を身近に感じられる場へ

・今まで距離感のあった歴史的遺産を身近に感じ、親しみを持ってもらうことにより、新たなイメージの中で、この場の新鮮な活用が芽生えることを期待。

・芝生の広がる中に佇む、レトロな庁舎として、イメージしている。夜間はライトアップされその魅力が増す。

■花時計をはじめとする既存樹木はできるだけ残し、場合によっては移植して存続させたい。



県庁舎内部機能のリプレース

県庁舎本館、南別館、東別館 及び、防災危機管理センター、県民会館を一体の建物として、内部諸室配置のリプレース(見直し再配置)を行うことによって、県庁舎本館、特に低層部分を庁舎前広場と一体となった文化・コミュニティ空間として整備したい。

さらに、県庁舎本館全体を、文化施設として再生できれば、県の文化的シンボルとなり、名所としても魅力的なところになると思う。

県警本部の低層部を開放

市民に親しまれている七十二峰橋との位置関係から、県警本部の低層部をオープンな遊歩道にできないだろうか。二つの『ば』のしなやかな『つらなり』が実現し、市民に喜ばれると思う。

駐車場のリプレース

県庁舎本館前駐車場及び、当該庁舎周囲の駐車場を整理し、「もりあがるば」及び、「ひたるば」の効果的『つらなり』を実現したい。ついでに、それに代わる駐車場として、NHK跡地及び、県警本部東側に移設する。

尚、県議会議事堂前及び、県民会館前駐車場は、整理し直し継続して使用する。
尚、駐車場の周囲は、緑地空間にて近隣に配慮したものとする。

「もりあがるば」の組み立てイメージ

